

「M情報デスク」サポート団体  
 救う会大阪 NO!民主桜組  
 米国に原爆投下謝罪を求める会  
 大阪の公教育を考える会  
 スパイ防止法の制定を求める会  
 外国人参政権に反対する会・関西  
 日教組の憲法行為を自及する市民の会  
 竹島を奪還する会・関西  
 靖国神社に眠る御霊に感謝する会

# MASUKI INFO, DESK FIGHTING REPORT

闘争の報告

No. 139  
 【発行・編集】  
 MASUKI情報デスク  
 増木直美  
 大阪府豊中市上新田2-6-25-113  
 TEL 090-3621-1509  
 FAX 06-6835-0974  
<http://mid.parfe.jp/>  
 mid@jewel.ocn.ne.jp



左より松浦芳子杉並区議、地元応援ガールお二人。恭子参議院議員、中山成彬先生。

# 戦い済んで...どいつになる日本

今一度、声を大にして  
 「日教組は癌だ!」

一昨日(11月27日)、宮崎へ。前文部科学大臣中山成

彬先生の決起集会に参加してきた。この報告書が各位のお手元に届くころは選挙の結果も出ているだろう。中山先生は言うまでもなく、「日教組は癌だ!」と発言され、自民党の援護もなく政界を追われた。断腸の思いから3年。パワーアップをしてきた3年。今一度

「日教組は癌だ!」と声高に叫んでいた。教育正常化運動の片隅に身を置くものとして、今回の選挙で何よりも大事な戦局だ。これ以上中山先生を遊ばせたら、それは国家的損失である。今度は橋下維新の会代表代行や、石原暴走族総長もいる。安倍さんも3年前より威勢がいい。かなり事情が変わった。必ずや3年前とは違った結果が出ると思う。

そしてこの集会には遠路東京から、杉並区議の松浦芳子先生も駆けつけてくださった。びっくろ。私が、「ワゴンで行くから一緒にいかないか。」とメールで呼びかけたのを見られたとの事。嬉しいな。もちろん近畿以西の人を対象に流したのに。そこで急遽、団長松浦先生と私と嫁の3人で「中山成彬全国応援団」を結成し、檄を飛ばしました。決起集会はあの宮崎という田舎都市で、1500名もの



熱気でうすまり、今回こそは勝利を確信しました。

集会後、中山先生や恭子先生と食事に行きました。食事中に先生が「私は今宮崎で一人暮らし」と嬉しそうに仰いました。その横で恭子先生が瞬間怖い顔。大体中山家の力関係がわかりました。また、恭子先生が世話女房であることも感じました。私はポイントしていません。しっかり観察しつかしのレポートします。

さて、道中ちよっと早くついたので、小林で高速を降り、ICの近所の「あすなろ温泉」に寄りました。老夫婦がやっているひなびた温泉。入浴代300円。そこで温泉につきりながら眼下に広がる「原日本風景」を楽しんできました。

【極秘情報】

宮崎は松浦先生の初恋の地。「若い時代の甘い切ない気持を思い出しながら帰ってきました。」との事。増木

# 高田宮様？高田宮？

M情報 増木重夫

私は自然と「高田宮様」と口に  
出てしまいますが・・・

1月21日。NHKで次のようなニュースが流れたと、K氏は「またNHKがやってくれました。高田宮様の没後10年で『式年祭』のニュースで『高田宮様』と言わず『高田宮』と呼び捨てていらっしゃいます。」とコメントを付け情報を寄せられた。

## 高田宮 没後10年で「式年祭」

高田宮が亡くなって10年に当たる1月1日、東京・文京区の墓地で皇室行事の「式年祭」が行われ、皇族方が参列されました。東京・文京区の豊島園墓地で行われた高田宮の「十年式年祭」には、高田宮妃の久子女王と3人のお子さまや皇太子ご夫妻などの皇族方、それに親族や宮内庁の幹部ら36人が参列しました。

はじめに祝詞が読み上げられたあと、天皇后陛下下の使いに続いて、高田宮家の当主の久子女王が墓の前に進み、玉串をささげて拝礼されました。その後、3人のお子さまや皇族方なども拝礼されました。21日は高田宮邸でも陛下下の使いや皇族方が参列して「式年祭」が行われ、7月に心臓の手術を受けた父親の三笠宮さまも行事に臨まれました。

今月28日には陛下下も墓を訪れ、拝礼されることになっています。

皇太子に殿下をつけなかつたり、「薨去」を「亡くなる」などといったり、無茶苦

茶は今に始まった話ではありませんが、「高田宮様」か「高田宮」か。各位のご意見を拝聴したいと思います。

東京の西村修平氏からは簡潔明瞭、「皇族に対する『様』は、皇室に対する庶民レベルでの敬愛を示す感情であり、公的な場では『様』はつけないのが慣例のはず。『三笠宮』に様は付けない。」

また、F氏は「指摘は、『高田宮様』と言わず『高田宮』と呼び捨てている、とのことですが、これは呼び捨てという問題ではありません。『高田宮様』という使い方はおかしな使い方です。『高田宮』は家の『宮』です。

一般でも、「増木家様」というより、『増木家のご一同様』や『増木家の長男』などと表現するのではないでしようか。

「称号の『浩宮(ひろのみや)様』『礼宮(あやのみや)様』『敬宮(たかのみや)様』などの『宮様』という言葉と、家である宮の『○○宮』と混同されているのではないかと思います。

「称号の場合、『礼宮様』など言いますが、お一人お一人に与えられた宮様の「称号」と、家の『宮』は全くちがうものです。

そのまゝ、『憲仁親王殿下』というのが正しいのですが、宮家の一当主が薨去あそばされたことの重さを表現したい場合や、殿下のお名前だけだと一般の人には判りにくく、お顔も思い

浮かびにくいので、という場合には、厳密には、正しい使い方ではないと思うんですが、『高田宮家の憲仁親王殿下』と表現するのが妥当ではないでしょうか。また、永井様より次のようなご意見も寄せられています。

「先ず、国民がしっかりと肝に銘じておかなければならないのは『皇室は一家族』であらせられるということである。

『皇室』は『公』であり、『私』生活の単位である一般家庭の『家』と同じように考えてはならないことに注意すべきである。

先ずは『御称号』について説明すると、天皇陛下と皇太子殿下の子女にあたる『親王』『内親王』がお生まれになったとき、御名とともに幼少時の『御称号』を賜る。

大正天皇の第一皇子であられた昭和天皇の幼少時の御称号は『迪宮』(みちのみや)で、第二皇子『敦宮』、第三皇子『光宮』、第四皇子『澄宮』、昭和天皇の皇子・皇女は『照宮』『久宮』『順宮』の内親王方、そして今上天皇の幼少時の御称号は『継宮』、今上天皇の弟宮が『義宮』、妹宮が『清宮』である。

今上天皇の皇子・皇女は皇太子殿下の幼少時の御称号は『浩宮』、皇太子殿下の弟宮が『礼宮』、妹宮が『紀宮』である。そして皇太子殿下のお子様である皇子内親王殿下の御称号が『敬宮』である。いわゆる内廷皇族ではない、独立した宮様の子女である『親王』『内親王』は幼少時の『御称号』を賜らない。

次に『宮』『宮様』についてあるが、『宮』とは『宣賜の御称号』のことであるが、幼少時に賜る『御称号』とは性質が違つ。中には、混同している人も多いと思うが、親王が御成年に達せらるる或いは

御成婚により独立されるれば、御称号を宣賜の御沙汰を受ける。

この『宣賜の御称号』が『宮』である。故に後継皇族は宮号を賜らない。

昭和天皇の弟宮であらせられる淳宮雅仁親王は成年式において宣賜により「秩父宮」の宮号を、光宮宣仁親王は大正2年、8歳の時、有栖川宮威仁親王の薨去に際し、当時の旧皇室典範では養子縁組が禁じられていたため、大正天皇の特旨により、有栖川宮の祭祀継承者として第三皇子であった光宮に『高松宮』の宮号を、澄宮(雅仁親王)は御成婚の際に「三笠宮」の宮号を宣賜された。

今上天皇の弟宮であらせられる義宮正仁親王殿下は御成婚の際に『常陸宮』の宮号を宣賜された。

三笠宮(雅仁親王)殿下には3人の親王がおられたが、6月に薨去された寛仁親王は、『三笠宮』の後継皇族であるため宮号は賜らず、直仁親王殿下は、昭和63年、昭和天皇の宣賜により、独身でありながら『桂宮』の宮号を、平成14年に薨去された憲仁親王は御成婚の際に『高田宮』の宮号を宣賜された。

皇太子殿下の弟宮であらせられる礼宮文仁親王殿下は、御成婚の際に『秋篠宮』の宮号を宣賜された。

というように、『宮』はそれぞれ天皇陛下からの『宣賜の御称号』であり、宮号は一般国民の家名や苗字と同じではない。

6月に、寛仁親王が薨去されたとき、NHKはずっと『三笠宮(雅仁)さま』と言いつつ、『三笠宮』を宣賜されたのは寛仁親王殿下であり、寛仁親王は『三笠宮(雅仁)親王』ではない。同様に、『秋篠宮』を宣賜されたのは『次頁4段目へ』

# 左翼集會潜入レポート

## NPO法人百人の会理事 空花 正人

本日9日、文京区民センターにて左翼というより「親中反日」集會があり、取材しました。詳細を纏めるには時間が必要ですが、空花の得た特記事項をかいつまんで報告しましょう。

1. 集會名称「2/6 「南京大虐殺否定論13のウソ」の13年(南京大虐殺75周年行事)」

2. 主催者「南京の道・史実を守る会」百人斬り訴訟被告側支援、ならびに夏淑琴裁判支援団体

3. 登壇者氏名「井上久士、笠原十九司、渡邊春己、大谷猛夫、姫田光義

と、ここまできて、詳細を書く気力が失せました。とにかく笠原以下、「南京大虐殺あった派」の今の時点で言いたいことが、安倍政権誕生を目前にして、保守反動右傾化への警戒心「右翼リスク」井上談)ばかりであって、南京大虐殺があったという証拠立てた話は一切聞けなかったからです。まあしかし気持ちを奮い立たせて続けよう。

笠原は、南京関係裁判事例をもとに南京虐殺あったと肯定された、とか、教科書や辞典、歴史事典などの記述は「あった」で決まり、と豪語する。安倍政権下(当時の外相「麻生太郎」の「日中歴史共同研究報告書」ですら「南京事件を歴史的事実として詳述した」といい、それをもって学問的・歴史学的に決着がついたとも。外務省ホームページを見よ、という。

葬り去ったはずなのに、日本会議、つくる会、産経グループはぐるになって攻めてくる。河村だけし、石原慎太郎が余

## 計なことをして日中友好関係を壊した、国益を阻害したという。勢い余って失言が飛び出した。「河村だけは精神異常者だ」発言。片言隻句より、ここで大事なのは、決着がついたという論拠が、教科書、辞書、事典のみか、安倍政権の関与した「日中歴史共同研究」の成果だという点。それが本当ならば安倍政権が誕生したら、正していきたいものだと思う。

次に渡邊は、李秀英、百人斬り、夏淑琴裁判を担当した弁護士だが、「南京否定派の非合理主義」をやたらと強調。そっくりお前に返してやりたいよ。最後まで聞いていられなくなった我が同志のKさんは退席してしまった。彼の姿はまるで左翼そのもの(おっと失礼、擬態なのでしよう。自分だってそうなのだから人のことは言えないね)。

渡邊曰く、「夏淑琴裁判といえば、ここへきてまたおかしな裁判がはじまった。支那の裁判結果をこの日本でも認めろ」という『法理論』上の訴訟にもかかわらず、南京否定派が大挙して裁判所に集まった。対抗しきれないから今度の12月21日の東京地裁第103号法廷の公判に、南京虐殺あった派支援のための傍聴に駆けつけてほしいとのこと。また『ポウシヨウチヨウ』(漢字で書けますか)という言葉が南京否定派の標語になっている。戦前回帰の恐怖を感じる」と、警戒観を露わにした。何を隠そう、私は裁判傍聴してきたものの一人として、とにかく腹立たしいのは、夏淑琴裁判の東京地裁・三代川三千代裁判長の判決文だ。東中野教授をたった一文字の“bavonet”

の訳語でもって、「学問の名に値しない」と切り捨てたのだから。あのような「迷刀」で学者を切り捨てることのできるのだ。あなおそろしや。松村さんの法廷での「絶句」狼狽ぶり「もやり玉に挙げた。南京事件否定派に対する讒言はもういいよ。南京事件あったという証拠を出せよ。これが私の言いたいこと。ともかくも、「南京大虐殺あった派」のいわゆる「歴史研究者」の系譜が判明した。それは、つくる会会員屈指の歴史研究者・石部勝彦さんの在籍された「東京教育大学」歴史学会 派閥。Zエヌの「女性国際戦犯法廷」ドキュメンタリーの長井暁プロデューサーもそう、家永三郎で有名な、東京教育大学(歴史)出身だったよね。姫田光義「現在は中央大学不名誉教授(たしか吉見義明もそうだったね、まだ不名誉教授まで昇格していないが)こやつは、中帰連「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」の世話人代表。1984年、今の南京大虐殺記念館設立前の発掘調査の立会人。そのときの東京教育大学派閥の子分が、笠原十九司であり、井上久士なのだ。アサヒの本多勝一も同道した。

## 笠原は言う、「安倍、平沼、福田、中曾根、麻生などは、戦犯(または同様の)家系のものだ。愛国的言辞が日中友好を阻害して国益を損ねている。安倍、石原らの尖閣強硬発言が、日中離間を進め、日米軍事同盟強化すなわちアメリカの武器輸出戦略に乗っかるのだ。」と。また、もつ今の時点で「安倍首相」と言い間違えている。自民圧勝を感じているようだ

が、世論調査でまだ「18%が日中友好を信じている」ということに期待を寄せられているみたい。

詳細ご希望の方は事務局を通じてご連絡ください。空花

「一般家庭の『分家』と同様の扱いで、国民がそつ呼称することは不敬ではないかと思う。皇室を『天皇家』と、『宮家』という分家に分けて一般国民の『家名』と同様に扱うことは皇室を貶めているのと同じだからである。つまり『高田宮』の宮号は家の宮号ではありません。増木家様云々と一般国民の家庭と同列に論じるなど言語道断です。また、『殿下』という敬称も「葬儀に当たる献舞の儀以降は正式にはつけません。ただし、暫くは敬称をつけてお呼び申し上げるのは戦前においても可とされておりましたが、本来『陛下』『殿下』『閣下』といった敬称は、意味的には生きておられる方につけるものであって、薨去された方につけるものではありません。詳しくは、『増補皇室事典』(井原頼明編、富山房刊)をご参照ください。」

## 《前頁末尾より》

礼宮文仁親王殿下であり、秋篠宮妃である紀子妃殿下は「秋篠宮紀子」妃殿下ではなく、悠仁親王殿下も「秋篠宮悠仁」親王殿下ではない。NHKは多数の視聴者(国民)から、このことを指摘されていたはずである。にも関わらず、『三笠宮寛仁さま』と言いつけたのは、皇室は一つであるという精神の否定である。例えば、『天皇家』という言葉は、戦後になって『天皇制廃止』という概念から広まったものであり、私生活の単位である『家』に対し、『皇室』は絶対的なる『公』の立場であり、その本質は『私生活』では無いのであるから、『天皇家』という表現は正しくない。

寛仁親王は『三笠宮家』『秋篠宮家』という呼称も、皇族同士が互いを区別する為に便宜上、そつ呼称していると云われたことがある。

「一般家庭の『分家』と同様の扱いで、国民がそつ呼称することは不敬ではないかと思う。皇室を『天皇家』と、『宮家』という分家に分けて一般国民の『家名』と同様に扱うことは皇室を貶めているのと同じだからである。つまり『高田宮』の宮号は家の宮号ではありません。増木家様云々と一般国民の家庭と同列に論じるなど言語道断です。また、『殿下』という敬称も「葬儀に当たる献舞の儀以降は正式にはつけません。ただし、暫くは敬称をつけてお呼び申し上げるのは戦前においても可とされておりましたが、本来『陛下』『殿下』『閣下』といった敬称は、意味的には生きておられる方につけるものであって、薨去された方につけるものではありません。詳しくは、『増補皇室事典』(井原頼明編、富山房刊)をご参照ください。」

「一般家庭の『分家』と同様の扱いで、国民がそつ呼称することは不敬ではないかと思う。皇室を『天皇家』と、『宮家』という分家に分けて一般国民の『家名』と同様に扱うことは皇室を貶めているのと同じだからである。つまり『高田宮』の宮号は家の宮号ではありません。増木家様云々と一般国民の家庭と同列に論じるなど言語道断です。また、『殿下』という敬称も「葬儀に当たる献舞の儀以降は正式にはつけません。ただし、暫くは敬称をつけてお呼び申し上げるのは戦前においても可とされておりましたが、本来『陛下』『殿下』『閣下』といった敬称は、意味的には生きておられる方につけるものであって、薨去された方につけるものではありません。詳しくは、『増補皇室事典』(井原頼明編、富山房刊)をご参照ください。」

# 東條英機閣下の遺言

M情報 増木重夫

12月8日。大阪の中谷良子氏のブログで「東条英機閣下の遺言」という記事を発見。あらためて読んでみると、陛下の「開戦の詔」同様、これが先の大戦の真実だ。今一度静かに読んでみよう。

東条閣下には多くの評価がある。しかし私は、閣下は武士だったと信じる。(増木)

開戦の時のことを思い起こすと実に斷腸の思いがある。今回の処刑は個人的には慰められるところがあるけれども、国内的の自分の責任は、死をもって償えるものではない。しかし国際的な犯罪としては、どこまでも無罪を主張する。力の前に屈した。自分としては、国内的な責任を負って満足して刑場に行く。ただ同僚に責任を及ぼしたことが、下級者にまで刑の及びたこととは、実に残念である。天皇陛下および国民に対しては、深くおわびする。

元来、日本の軍隊は、陛下の仁慈の御志により行動すべきものであったが、一部あやまちを生じ、世界の誤解を受けたるは遺憾である。日本の軍に従事し、倒れた人および遺家族に対しては、実に相済まぬと思っている。今回の判決の是非に関しては、もとより歴史の批判に待つ、もしこれが永久の平和のためということであつたら、もう少し大きな態度で事に臨まなければならぬのではないか。

この裁判は、結局は政治裁判に終わった。勝者の裁判たる性質を脱却せぬ。天皇陛下の御地位および陛下の御存在は、動かすべからざるものである。天皇陛下の形式については、あえて言わぬ。存在そのもの

が必要なのである。それにつきかれこれ言葉をさしはさむ者があるが、これは空気や地面のありがたさを知らねと同様のものである。

東亜の諸民族は、今回のことを忘れて将来相協力すべきものである。東亜民族もまた他の民族と同様の権利をもつべきであつて、その有色人種たることをむしる誇りとすべきである。インドの判事には、尊敬の念を禁じ得ない。これをもって東亜民族の誇りと感じだ。今回の戦争にて、東亜民族の生存の権利が了解せられはじめたのであつたら、しあわせである。列国も排他的な考えを廃して、共栄の気持ちをもつて進むべきである。

現在の日本を事実上統治する米国人に一言するが、どうか日本の米国に対する心持ちを離れしめざるように願いたい。また、日本人が赤化しないように頼む。東亜民族の誠意を認識して、これと協力して行くようにしなければならぬ。実は、東亜の多民族の協力を得ることができなかったことが、今回の敗戦の原因であると考えている。今回日本は米国の保護の下に生活して行くのであるが、極東の大勢はどうであろうか。終戦後わずか3年にして、アジア大陸赤化の形勢はかくのごとくである。こんごのことを考えれば、実に憂なきを得ぬ。もし日本が赤化の温床ともならば、危険この上ないではないか。日本は米国よりの食糧その他の援助を感謝している。しかし、もしも

一般人が自己の生活の困難や、インフレーション、食糧の不足などを米軍の日本にあるがためなりというような感想をもつようになったならば、それは危険である。実際にかかる宣伝をなしつつある者もあるのである。よつて米軍は日本人の心を失わぬように注意すべきことを希望する。

米国の指導者は、大きな失敗を犯した。日本という赤化の防壁を破壊し去つたことである。いまや満州は赤化の根拠地である。朝鮮を二分したことは東亜の禍根である。米英はこれを救済する責任を負っている。従つて、その意味においてトルーマン大統領が再任せられたことはよかったと思う。日本は米国の指導にもとづき武力を全面的に放棄した。それは一応は賢明であるといふべきである。しかし、世界が全面的に武装を排除してないのに、一方的に武装をやめることは、泥棒がまだいるのに警察をやめるようなものである。

私は、戦争を根絶するには、欲心を取り払わねばならぬと思う。現に世界各国はいずれも自国の存立や、自衛権の確保を説いている。これはお互いに欲心を放棄してない証拠である。国家から欲心を除くということは、不可能のことである。されば世界より戦争を除くこととは不可能である。結局、自滅に陥るのであるかもわからぬが、事実はこの通りである。それゆえ、第3次世界大戦は避けることができない。第3次世界大戦において、おもなる立場に立つものは米国およびソ連である。第2次の世界大戦において、日本とドイツが取り去られてしまった。それゆえ、米国とソ連が直接に接触することになった。米ソ2国の思想上の相違はやむを得ぬ。この見地からいふも、第3次世界大戦は避けることはで

きぬ。第3次世界大戦においては、極東がその戦場となる。この時にあたつて、米国は武力なき日本をいかにするのであろうか。米国はこの武力なき日本を守るの策をたてなければ、また何をかいわんや。そうでなしとすれば、米国に何らかの考えがなければならぬ。米国は、日本8千万国民の生きてゆける道を考えてくれねばならない。およそ生物としては、生きんことを欲するのは当然である。産児制限のごときは神意に反するもので、行ふべきではない。

なお言いたきことは、最近に至るまで戦犯容疑者の逮捕をなしつつある。今や戦後3年を経ているのではないか。新たに戦犯を逮捕するといふときは、即時にやめるべきである。米国としては、日本国民が正業につくことを願ひ、その気持ちでやつて行かなければならぬ。戦犯の逮捕は、我々の処刑をもつて、一段落として放棄すべきである。戦死傷者、抑留者、戦災者の霊は、遺族の申し出があれば、これを靖国神社に合祀せられたし。出征地にある戦死者の墓には、保護を与えられたし。従つて遺族の申し出あらば、これを内地に返還せられたし。戦犯者の家族には、保護を十分に与えられたし。青少年の保護といふことは、大事なことである。近時いかかわしき風潮は、占領軍の影響からきているものが少なくない。この点については、わが国古来の美風をも十分考慮にいれられたし。今回の処刑を機として敵、味方、中立国の罹災者の一大追悼会を發起せられたし。もちろん、日本軍人の間に間違いを犯した者はある。これらについては衷心、謝罪する。これと同時に、無差別爆撃や原子爆弾の投下をなしたことについて

《次頁4段目に続く》

# イジメ問題は弱者の立場からでは解決しない

京都北山細野の神主 中村重行

こんなにイジメ問題が次々と出て来て未だに無くならない。解決しないのは原因がはっきりしていると思うのです。

いじめ防止のどの案も「虐められる側に立った解決方法」弱者の立場からなので「虐める側（強者）からの解決方法」をとらなければ永遠にイジメ問題は起こって来ます。弱者はイジメに遭います。イジメに遭ったものの解決方法を今まで一生懸命に考え、実行しようとして来ましたが、イジメがおこらなければイジメ問題はありません。イジメがおこってからはイジメを無くすることは出来ません。イジメに遭った子供（弱者）の教育（？）しか出ていないのでは。

まず最初に行なければならぬのは、虐める子（強者）の教育ではありませんか。昔、私たちは「ヨワイものイジメは卑怯な奴のすることだ」だから、ヨワイものイジメはやれば大人から、友達から制裁を受けて来ました。「卑怯な奴」と言う言葉は「キタナイ奴」と同じように男の子（勿論女の子も）にとっては一番侮辱的な言葉でした。何時代の時代からか大人の世界でも「卑怯者」とか「キタナイ奴」は政治家や金儲けが人生と考える人たちにとっては「卑怯でもキタナイ手段を使っても」金さえ儲ければ、地位さえ得ることが出来るのなら、すんで取り入れられる手段として褒め言葉になってしまったのではないのでしょうか？強い者は弱者を守る義務があると言う道徳、宗教を子供の心に植え付けなければ永遠にイジメは無くならないと思うのですが。「神様が見てはるやー」と言

える大人が増えないことには、告げ口ばかりで自分で解決出来ないヨワイ子供たちと、ヨワイものイジメをする「卑怯な子供」が今後もドンドン増え続けるのではないのでしょうか。

まず、大人が「卑怯な手段」「キタナイ手段」を戒めなければ、子供たちの手本は大人の行動なので、神に誓っても嘘をつく、近隣敵国の国民性に近づいてきましたね。（神を信じている周辺敵国民はいまね）イジメをする子供はイジメは永遠に無くならないと思います。

## フィフィ母ちゃんもキレる

相次ぐ子どもいじめ自殺問題に、持論を展開したタレントのフィフィ RBB TODAY 11月8日(木)

今年6月に東京・品川区の区立中学1年の男子生徒がいじめを苦に自殺した事件を受け、外国人タレントのフィフィが自身の「Twitter」上で「少年法とかで社会的制裁を免れる事に納得いきません」とツイートし、相次ぐいじめ問題に対し一石を投じている。

品川区立中学1年の男子生徒が自殺した問題をめぐり、区教育委員会は10日に同件の調査結果を区議会に提出。その報告書では、自殺した生徒は入学直後から同じ学年の男子生徒複数名により文房具を壊されたり、囲まれて殴られるなどの暴力、また、「キモイ」「うざい」

「死ぬ」などといった言葉の暴力を日常的に受けるなど、苛烈ないじめが繰り返されていたことが明かされていたことが、複数メディアによって伝えられた。また、学校側がそうしたいじめの事実を知らなから放置していたことも明らかにされている。

こうした報道を受け、自身も幼少の子どもを育てる親であるフィフィは、「息子がアザだらけで帰ってきたり、家まで付けられてるの知って私なら野放ししない。加害者に百倍返し」と憤慨。自殺する子どもの特徴として「イジメを苦にだけじゃない、親を悲しませたり、心配させたくなくて自殺するから、自らのOSのサインを出せる子は稀ですよ」との自身の見解を示し、続けて「学校は閉鎖的。暴力なのに警察は動かない。周りを見て見ぬ振り。そんな環境が教育現場ですか？」と疑問提起した上で、「学校という環境に適応しないくて、どう工夫しても難しい子供なら、他の教育方法を考える。窮屈を強い気はない」「この際、学校に行かせない決断が我が子を救うと親達に周知させて良いと思う」との持論を展開した。

また、フィフィの発言を受けて「加害者に百倍返し」では解決にならないのでは、とする一般のTwitterユーザーからの意見に対しては、「それが暴力とは限らない」とした上で、「必ず制裁はします。少年法とかで社会的制裁を免れる事に納得いきません。被害者は泣き寝入りでしょうか？今後、加害者を作らない為の原因追求と、やった事への罰則は別に考えるべきです」と、いじめた側の責任や罰則についての自身の考えも示している。

私、フィフィと気が合いそう。(マスキ)

←前頁末尾より

て、米国側も大いに考えなければならぬ。従って、さようなことをしたことにについては、米国側も大いに悔悟すべきである。最後に軍事的問題について一言するが、我が国従来の統帥権独立の思想は確かに間違っている。あれでは陸海軍一本の行動はとれない。兵役については、徴兵制によるか、傭兵制によるか考えなければならぬ。我が国民性を考えて、再建の際に考慮すべし。教育は精神教育を大いにとらなければならぬ。忠君愛国を基礎としなければならぬが、責任感をゆるがせにしてはならぬ。この点については、大いに米国に学ぶべきである。

学校教育は、人としての完成を図る教育である。従前の醇朴剛健のみでは足りない。宗教の観念を教えなければならぬ。欧米の風俗を知らせる必要もある。俘虜のことについても研究して、国際間の俘虜の観念を徹底せしめる必要がある。

以上が昭和23年12月22日夜、死刑執行（12月23日零時）数時間前に、東京巢鴨において、教誨師の花山信勝師の前で東条英機が朗読した遺言の摘要である。

『秘録 東京裁判』清瀬一郎著（中央公論新社）

# フランス人記者から取材を受けました

ヅエリリーと 中谷良子(大阪)

『国難突破！安倍救国政権樹立反日メディア糾弾』国民総決起集会・国民大行動「大阪」に行っていました。

デモ参加者の中にフランスのラジオ局のジャーナリストがおり、デモ終了後インタビューを受けました。一番驚いたのが「ジャーナリスト」という肩書がありながらも、「100」という言葉が知らなかったことです。日本の真実の歴史は、やはり海外では入念に歪められたり隠されているのでしょうか。スマホで録音しておりましたので文字起こししてみます。

このフランス人ジャーナリスト、インタビュー中「チャイナ」と言わず「シナ」と言っていました。これは少々驚き。それでは、始まり始まり！

Q(フランス人記者)「あなたはこの「がんばれ日本」のデモを支持していますか？」

A(ワ・タ・シ)「もちろんです」

Q「自民党の安倍氏と日本維新の会との共通点、接点はあると思いますか？」

A「はい、教育政策などはどちらの政党も互いに協力できると思います」

Q「教育と言っていますが、日本ではどのような教育がされているのですか？」

A「今の日本の子供たちは本当におかしな親を殺したり、子供が簡単に親を殺してみたりという事件が頻りに起こっています。私の母の話によると昔の日本では変質者はいたけど、このようにしょっちゅう家族間で殺しあうようなことはあり

得なかったそうです。日本人の精神を崩壊させたのは「日教組」という教職員組合の存在だと言っても過言ではないと思います。今のおかしな日本人、幼稚な若者、すべてを日教組の責任だと押し付ける気はありませんが、今でこそ組織率が30%に低下しています。昔は60%の確率で日教組の加盟率の高い学校が多かったと聞きます。

その教育の成果「現代の日本人の成れの果ては日教組が当然大きな影響を及ぼしていたと考えるのが妥当だと私は思います。私もかつては、自己中心的で本当にむちゃくちゃな人間だったと思います。しかし本当の日本の歴史を知ってからは今までの自分を葬り、本当の正義感に燃えています。今の日本人の若者は昔私がそうであったように、学校できちんとした教育を受けていないため危機的状況に置かれていると思います。そういった状況を打破するためにも今回の選挙では、安倍さんや日本維新の会を応援しなければならぬと思います」

Q「あなたの言う「日教組」とは何ですか？」

A「彼らは、思想が北朝鮮思想、シエナダーフリー、日米安保反対、自衛隊反対、反戦平和、日本が大嫌いな不思議な「日本」教職員組合」です。

そのような思想の教師を大量に輩出し、野放しにしてきたのが、日本の文科省とアメリカのCIAの占領政策です。しかし、アメリカだけでこのような大

きな組織は作れません。当時、日本には日本を貶め、利権を貪りたい在日朝鮮人密航者が沢山いました。それらの者たちとアメリカがタッグを組み、敗戦の反省として「日本教職員組合」という名のもと、純粋な日本人を赤い人たちに洗脳で染め上げていき、アジアを白人植民地支配から解放した当時の日本軍を悪い人たちとして歴史的に私たちを自虐史観として植えつけてきたのです」

Q「では、あなたは今の日本は「bera」が牛耳っていると思っているのですか？」

A「私は愛国的な「bera」であれば問題はないと思いますが、日本に今存在するサヨクと言われる人たちは日本が嫌いで、いつも民を想う天皇陛下をこの世から抹殺しようと企んでいる人たちがかりです。サヨクには洗脳されきった純粋日本人の他に、在日朝鮮人が自らの敗戦利得利権のために日本の教科書をねつ造し、お人好しの日本人を騙し続け、土地を乗っ取ったり、平気で嘘をついて心ある日本人の気持ちを踏みにじる行為をしておきながら自分たちは戦争の被害者である」と「きれいごと」↑(こちらなかなか意味が伝わりにくかったですを言い、世界に必死で Propaganda として発信し続けています。日本には純粋な日本人のほ

が多いのですが、戦後日本に密航してきた朝鮮人なども大変多くいたと聞いています。今現在は、通名制度などがあり、その多くは日本の姓名を名乗り生きているので私たちが彼らを純粋な日本人かどうか判断できません。それにつけ込み、在日朝鮮人は日本で沢山の悪事を働いてきたのです」

Q「あなたの言う「CIA」とは何ですか？」

A「ポカーン・・・え？ 知らないん

ですか？ 難しい長ったらしい名称なので正式名称は忘れましたが、わかりやすく言えば敗戦した日本を統治するためにいた、連合国軍最高司令官総司令部。そしてその長官がアメリカのマッカーサー。そして統治方針は日本の伝統、大和魂、軍事力などの脅威を抹殺させてしまおうことでした。アメリカのせいではすっきり純粋な礼儀正しき崇高な精神の日本人は少なくなってきました」

Q「ではあなたは、オスプレイなど反対の立場ですか？」

A「日本が主権を取り戻し、軍事も何もかもきちんとした独立国になるならアメリカは必要ありませんが、今の段階では周りを海に囲まれたこのようなちっぽけな島国ではアメリカに頼らざるを得ません。今、沖縄でオスプレイなどの批判を繰り返して、激化させているのは純粋な日本人ではない人たちだと思います。今日本は隣国に脅かされ続けており、支那中国に至っては1000基ともいわれる核ミサイルを日本に向けているので、そのような状況のなか、沖縄の米軍を撤退させたりすれば、たちまち支那中国の侵略が沖縄から始まり、やがて日本本土にまで広がります。中共が行っているチャベツ僧への少数民族抹殺計画が実行されているようにたちまち日本でも Google が巻き起こるといふ事態も決して架空の話ではないと思います。そういった意味でも日本の崇高な精神を奪った憎きアメリカでも現実的には米軍は今の日本には必要不可欠です。

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

# 横須賀市自治条例・住民投票条例の是非

日本世論の会 篠田 亮

横須賀市の“自治条例”が否決廃案になった由、実に祝喜至極。事の始まりから長い間、多角的に反対運動を展開尽力された方々、支援していただいた全国の心ある皆様に、敬意とお礼、感謝を申し上げます。

この手の運動を推進してきた連中は、一つは大衆を欺瞞・扇動する左翼革命運動（一世紀になろうとする国際共産主義運動の一形態。ハトが作った「内閣府新しい公共推進会議」（23年度予算で20数億円を計上、工作が行われた。今も存続）はその参謀本部を目指したも

の、松井孝治がキーマン。法大の松下が教祖。慶大藤沢、東洋大も布教機関）であり、他の一つは米国王導でミンシユ政信仰を叩き込まれた敗戦国民心情だと小生は考えている（投票・多数決を元祖？ギリシヤの昔から、大哲学者が批判したこと、独立間もない米国のミンシユ政を視察した仏人政治学者が痛烈に批判したこと、オルテガ・イ・ガセットの「大衆の反逆」、トマス・ホップズの「リヴァイアサン」、大学卒でさえ知らない列島住民（≠国民）の実態がある。実に米国の占領戦略大戦果）。

米国の仕掛けた異だけではないにしても、2千数百年間培養してきた日本文化が、戦後約70年間でここまで崩れてしまった今、為すべきは、人間観・人生観の再興から始めるしかないように思う。

余談：前期中等教育迄に人生・社会の標準を修め、後期で相反する思想などを

比較考究。『教科書で学ぶ』とは斯くあるべきではないだろうか。

\*米軍基地所在地がテキの戦術目標らしいことから、横須賀市での戦いを該当自治体に周知。

\*“自治”の2文字に盲目的に拝跪する市民に、責任との関係を知らせ、考えさせる運動。

\*地方自治が執りうる責任は何かの啓発。

\*ミンシユ政批判の歴史を周知。序にMax Weber「職業としての政治」を周知（学者らが大衆の多数決不信を言わない保身に怒り）。

\*藤沢市での狡猾な政略

先代市長が設けた条例策定委員会の答申を引継ぎながらこれを握り潰したものの、市内を3地区に分けて市議会から独立した地域経営会議なる機能を創設。23年度20数億円の予算執行権が付与された。

後継(前)市長のsocial climberとしての野望による、公金を以てする選挙運動に止まればまだしも、実は市民活動の大勢は、サヨク百年のノウハウ継承のプロ、いずれモンスターになるのは目に見えていた（庇を貸して母屋を取られる）。

幸い土地開発公社経由の錬金術（乃至公金詐取）が発覚、失脚したのは幸いであったが、斯かる裏道経由の「新しい公共」の例があることを知って欲しい。

《前頁末尾より》  
見てきた日本人という人種はどういう印象ですか？

▷(フランス人記者)とても礼儀正しく親切で優しい人が多い

Qでは、そのような性質の日本人の祖先が、従軍慰安婦の強制連行や南京大虐殺60万人も虐殺したなどという歴史があると思いませんか？ そのような礼儀正しい親切な日本人が、そのような非道の極みを尽くした行為を本当にやっと思ったと思いますか？ ただ過去の戦争犯罪時に日本人が本当に極悪非道の限りを尽くしていたのであれば、私たちの「親切で優しく礼儀正しい」DNAというものは突然変異でなんでしょう？ 私たちのDNAに極悪非道な血が脈々と受け継がれているならば日本の偉人たちの中にもスターリンや毛沢東のような鬼畜大量虐殺犯が名前を残していなければおかしくないですか？ 私たちの先祖の戦争というものはアジアを白人の植民地から解放するため

のやむを得ない選択の戦争でした。日本には4つのseasonがあり、みんな自然が大好きで自然や動物を大切にしています。靖国神社では戦争で神風特攻隊同様に亡くなった伝書鳩、犬、馬などの慰霊碑まで祀られていて、多くの人が毎年参拝しています。東日本大震災では、海外も絶賛するほど日本全体が助け合い精神で福島の方々も日本人同士の堅い絆で乗り切ることができたと思います。東日本大震災でそそくさと日本を去ったり、盗人を働いた者は、ほとんどが韓国人や支那人中国人です。そこまで人や動物を大切にしている日本人が過去に凶悪で無差別な殺人鬼になり得たのか？ というところを海外の人は冷静に考えればわかりそうなものなのに、と思います。フランス人の

あなたたちに言いたいのは、日本は戦争に負けたことで多くのリスクを未だに背負われ続けています。歴史を作り変えられ、日本人としてのプライド、大和魂、美徳などが奪われてしまつてアメリカの日本人解体計画はこうして大成功を収めたのです。そのアメリカの工作に乗っかって日本人の戦争犯罪をいつまでも持ち出し、自国の利権化しているのが隣国である北朝鮮、韓国、支那中国なのです。そういうことなので、こういった日本の真実をフランス人である、あなたたちが世界に発信してくれることを日本人として強く望んでいます。

私からフランス人である、あなたたちにもうひとつ質問があります。  
今日、歩道であなたたちが何組かの日本人に「good morning」していたのを見掛けました。その中で、デモ参加者以外にあなたがたの質問にまともに答えられた日本人はいましたか？ どっちかと言うときちんと答えられなかった人が多かったのではないですか？ 今の日本、無関心な人が多いから。まあ彼らも犠牲者なんだけどもね。  
▷うん・・・そうですね。きちんと答えられる人は少なかった。何も考えてないみたい。  
~~~~~  
やはり日本は海外に比べると生活の中で政治の密着度が薄い。教育の根本的な精神破壊が日に日に進行しているのを実感したインタビュウでした。  
彼らが私が言ったこと一字一句を力ツトせずラジオで放送してくださることを願ってやみません。  
~~~~~  
フランス人相手に1歩も引かず大演説のJelly。 リッパー！ (マスキ)

# 大学不認可問題と困った議員たち

ジャーナリスト 田口 圭

先日、安田浩一氏の講演会が銀座であった。とある保守系団体が主催したもので、安田浩一氏は日本における移民の現状について語った。

「千葉県では養豚場が多いが、その求人には日本人は応募してこない。いわゆる3入労働に日本人が応募してこない。したがって、中国人研修生を使って、養豚場の作業をやらせている」ということ。

また、「日本国内での縫製工場では、日本人の応募がない。したがって、中国人研修生を低賃金で使って、縫製をしている」ということ。

安田浩一氏はいう「みなさん。日本製ということ、買っている愛国者の方もいらっしゃると思いますけど、ほとんど外国人労働者が作っているのですよ」と。

要は、低賃金労働・3入労働を日本人が担わなくなったのが、移民流入の原因であると指摘しているのである。

さて、ジャパニーズムovingで「移民受入には、中絶違法化」で対抗しようという論文を発表したところ、前衆議院議員の小川友一先生より、読後感想をいただいた。小川先生は、東南アジアからの看護婦(わたし田口圭は反フェミなので看護婦とは書きません)を受け入れるときに、法制化に従事したということ。

日本で、看護婦の平均勤続年数は7年。けっこう続いているように見える職種だが、辞めていく人も実は多い。看護婦も3入労働であり、介護も含めて、60万人の不足が指摘される分野である。政府・財界は、子供が増えるということ

は非現実的と考えており、移民受入で、国内における労働力不足を解消する方向で、民主党も自民党も考えている。

「たちあがれ日本」の石原氏も、移民受入推進論者である。

さて、上記の石原発言のなかに「日本の大学を卒業した外国人に永住権を与えることなどを挙げた。」とある。要は、どういふことかということ、多くのコロンクと呼ばれる底辺私大は、日本人学生の応募では定員に満たず、中国人留学生により、運営を維持している。その底辺私大に進学してくれた中国人には永住権をあげますよという発想である。

「少子化なんだから大学が減って当たり前」だが、政府は大学を減らさないで、中国人留学生を増やすことで、大学数を維持するという拳に出ている。

(現行制度でも、日本の大学を卒業して、日本の企業で働いて、その結果、永住権を得ることもできる)

よく政治家が落選すると、底辺私大の講師などをやっているが、(また官僚などが、天降り先として、底辺私大に再雇用される例も多いが)、こういった底辺私大を生存させておくことについての、政治家・官僚の目的は、天降り先の確保である。

もちろん、底辺私大たちが自前の学費・寄付金で、学校を維持しているのであれば、けっこうなことだが、そうではなく、「私学助成」という税金で生かされている。まさに「生活保護」を受けているような状態である。

そして、中国人が、日本に渡航・入国するビザに「留学生ビザ」があるが、こういった底辺私大は、中国人の入国手段になっているのが事実である。留学生ビザで入国すると、一定時間は賃金労働することができず、コンビニでよく中国人をみるのは、そのせいである。ちなみに、米国の学生ビザ「Fビザ」は大学内の購買部などで働くこと以外の賃金労働を法律で禁止している。その点も大違いである。まさに、日本の底辺私大は、日本流入を目指す移民にとって「セキユリティホール」でしかない。

さて、なぜ、学力が低くても、大学に進学する層が日本に出てきたのか?それは、子供の数と関係がある。私の世代(団塊ジュニア)で、2人兄弟が主流だった。私の親(いわゆる団塊)で4人兄弟が主流。子供を1人〜2人しか持たない親といふのは、要は、子供を大学まで進学させたいと思っている。その結果、3人目以降を中絶しているわけである。まさに「家族計画」(笑)である。

1980年に、優生保護法の改正(経済的事情による中絶合法化の削除)が提言されたときに、このままでは日本は少子化になってしまうという指摘が強くあった。実際にその通りになってしまった。

結局、偏差値40程度でも入学できる大学が存在する。本来であれば、養豚場・縫製工場で労働しているべき低学力学生が、子供が1人〜2人しかいない家庭なので、底辺大学に進学してしまう。それゆえ、3入労働市場に日本人が流れてこないという現象になっている。もちろん、彼らに「学力」がなくなっても「カネ」があつて暇つぶしで底辺大学に進学するといふのであれば、まだわかる。しかしながら、「私学助成」が底辺私大にも配分

されてしまったため、わずか数十万円の学費で進学できてしまう。したがって、そんなに富裕ではない層まで、底辺私大に進学して、本来流入するべき3入労働市場に行かないという現象が発生してしまっている。ちなみに米国の場合、州立大学で年間150万円、私立大学(ハーバードなど)で年間300万円程度。(授業料のみで)学力優秀な学生は、個別に自分で奨学金を獲得するという仕組み。

板橋の「下村博文」なる議員が、田中大臣が底辺大学を不認可にしたことについて必死でかみついていた。こういった大学・学部が新設されることで「下村博文」にどういふメリットがあるのかは不明だが、下村博文は、こうかみついていた。「この底辺私大に進学を希望している(学生たちはどうなるんですか!と。その質問に対する私の答えは明白だ。「もっと勉強してまともな大学に進学しなさい」勉強ができないのなら、いますぐ千葉の養豚所に行つてそこで働きなさい。いますぐコンビニにいつて中国人の代わりに働きなさい」

底辺私大を作ること、私学助成による「財政負担」そして3入労働市場の「労働力不足」を惹起する。デメリットばかりだ。むしろ、底辺私大への補助金をカットして、東大・京大・東工大・一橋大学といった、一流大学の学生に、奨学金として給付したほうが、国家のためになる。底辺私大は「官僚」「政治家」の天降り先であり、新聞などメディアには広告費をばらまいてくれる。したがって、「官僚」「政治家」

「マスコミ」は底辺私大を擁護する。しかし「移民受入」の窓口となっている「底辺私大」が多い以上、底辺私大は国益を書るといわざるをえない。むしろ、政府は数値目標を設定して、底辺私大の閉鎖を推進するべきと思う。

# 酒井先生の日本ナシヨナリズム

## 元東京大学教授 酒井信彦

### アメリカ兵の暴力に怒り狂い、シナ人の暴力には沈黙する日本人

沖縄でまたアメリカ兵による暴力事件が発生したと、マスコミは大騒ぎをしている。事件というのは11月2日の未明に、沖縄県読谷村の古堅というところで、アメリカ兵が飲み屋で酒を飲んで暴れ、同じ建物の三階の民家に侵入して、寝ていた子供の顔を殴り、テレビを蹴って壊したというものである。アメリカ兵はその後逃げようとして窓から転落、大けがをして海軍病院に運び込まれた。

大騒ぎになった背景には、米軍兵士に対する夜間外出禁止令が出されていた、そのさなかの事件であったことがある。10月に起きた沖縄の婦女暴行事件のために、10月19日から、午後1時から午前5時までの外出禁止令が、沖縄に限らず日本国内すべての米軍兵士に対し出されていたらしい。

この種のニュースがとりわけ大好きな朝日新聞は、さっそく当日2日の夕刊の一面トップで報じている。それは極めて目立つ4段の見出しで、「米兵、酔って侵入・暴行」「沖縄 外出禁止令さなか」と銘打たれている。さらに社会面の十三面でも、『外出禁止令、空手形だ』 また米兵 怒る沖縄」と、これは3段見出しで取り上げ、現場の建物のカラー写真まで、丁寧に載せている。見出しで分かるように、両方とも外出禁止令が出ていたことを強調しており、共にかんがりの大型記事である。

朝日新聞はそれでも不十分だったようで、翌3日の朝刊の二面でも大きく取り上げている。これも見出しを紹介すると、「沖縄・暴行事件」「また米兵」怒り頂点」「政権、抗議しただけ」「知事『米軍』への信頼薄い」とある。

また3日も社会面でも取り上げ、「外出禁止 意味なし」「米兵が侵入・暴行」「帰宅促され憤慨」「街、緩い巡回」といった見出しがならぶ。

この社会面の記事は、外出禁止の実態について割と詳しく解説している。それによると、現在は基地の外部に居住する軍人も結構いて、それらの人間を米軍もきちんと管理など出来ないという。見出しの、「街、緩い巡回」とは、そのことを指している。また見出しの、「帰宅促され憤慨」というのは、暴行犯が外出禁止時間だから帰れと注意されたら、腹を立てて大声を出して暴れた、したことを表している。憤慨した犯人は三階に駆け上がり、民家に乱入して、寝ていた子供を殴ったわけである。

つまりこの事件は、外出禁止令が引き起こした事件なのである。外出禁止令が出されなければ、起きなかった事件である。その意味で、客観的に見れば、まことに滑稽な事件であると言わざるを得ない。

事件を起こさないようにすることが、かえって米兵のフラストレーションを喚起して、かえって事件をおこしているのである。

しかしこのもつとも重要なポイントを、朝日新聞は全く指摘しない。沖縄の人間も、「外出禁止令は空手形だ」「外出禁止令意味なし」と言っているようだから、アメリカ軍もくだらない外出禁止令など、一日も早く止めた方がいいだろう。

ところで外国人による日本人に対する暴行事件は、別に沖縄だけで起きているわけではない。中共では9月の虐日国家テロで、日本人が暴行を受けたが、それは完全に治まってはいないようだ。比較的最近の例では、10月26日の夜、上海に隣接する江蘇省太倉市の飲食店で、二人の日本人が二人の「中国人」から暴行を受けて、顔を負傷させられた。

11月2日の産経新聞の河崎真澄記者の記事では、「上海の日本総領事館によると、中国人の男2人が飲食店で店側とトラブルになり、日本人客2人が仲裁に入ったところ、男2人が殴りかかってきた」「暴行被害にあった日本人のうち1人は駐在員で1人はその友人。2人も病院で手当を受けた。日本人を標的にした暴行事件の可能性もあるが、詳細は明らかにされていない」とある。この「詳細は明らかにされていない」というのが、なかなか曲者であり限りなく怪しい。

そのあたりを考慮したのであろう、この河崎記者の記事の末尾には、次のように事件の背景説明が、キチンと付け加えられている。「5万6千人を超える中国最大の在留邦人を抱える上海と周辺地域では、日本政府による9月の尖閣諸島の国有化決定以降に、路上で突然、ラーメンを頭からかけられるなど日本人が中国人から暴行を受けるケースが多発。先月も上海市内で日本人らが刃物で切りつけられる事件が起きていた」。

では朝日新聞はこの中共の事件を、どの様に報道したのであろうか。それは産経より一日遅れて、11月3日の国際面の「地球24時」という雑報欄に出ていた。雑報欄であるから、ニュースとしては最も軽い扱いであり、完全なるべた記事なのである。

「中国・江蘇省太倉市の飲食店で、10月20日夜、日本人男性2人が中国人男性2人から暴行を受け、顔に軽傷を負っていたことがわかった。店側と中国人2人がトラブルになったのを仲裁に入ったところ、殴られたという。上海の日本総領事館によると、被害に遭ったのは日本企業の駐在員とその友人」。全文たったのこれだけ。外国人によって日本人が暴行を受けた事件なのに、沖縄の事件との格差・差別は、文字通り天と地ほどの違いである。

朝日は同じ11月3日の沖縄の事件に関する記事では、沖縄の識者二人に次のようにコメントさせている。「前泊博盛・沖縄国際大学教授は『沖縄は寛容だという誤ったメッセージが米兵に伝わり、犯罪を軽く考えているのではないか』とみる。糸数慶子参院議員は『なぜ沖縄はおびえながら生活しないといけないのか』と批判した。しかしこのコメントは、中共の暴行事件の方に、比較にならないほど当てはまる。

いくら殴られても黙っている日本人を、シナ人は完全に舐めきっているのであり、中共在住の日本人は、いつ暴力を振るわれるかと、おびえながら生活しているからである。

これほど偏向した報道を、臆面もなく展開する朝日新聞は、完璧にシナ人の手先であることが、端的にわかる具体例と言える。

# 日本経済は本当に可能だろうか？

UNK通信 大谷 和正

## 日本の世界における位置

1980年代、日本経済は躍進しGDPにおいてアメリカに次いで世界第二位となり、やがてはアメリカを抜き「ジャパン・アズナンバー1」の時代がくると言われていた。現在はどうかであろうか？バブル崩壊後20年以上にわたり、日本経済は沈滞したまま復活の兆しは見えていない。2011年、一人当たりの名目GDPを見ると、日本はシンガポールやベルギーに抜かれ18位と低迷している。

かつてはルクセンブルグやノールウェーに次いでトップクラスにいたが、経済の低迷により他国に追い抜かれている。経済が低迷すれば、世界における日本の存在感はこれに比例し低下している。国際間における一国の存在感は政治力、軍事力、経済力、文化力等多くの要素があり簡単に測れない。しかし経済力はいろいろな力のベースであり、日本の存在感凋落の原因の一つに経済の低迷が大きく関わっているのは間違いない。そこで日本の経済低迷の理由を次に考えてみる。

## 日本経済停滞の最初の蹟

1986年末の大納会で、日経ダウは史上最高の38615円をつけた。市場では来年は4万円だ4万5千円だと囃した。だが、翌年、年明けの大発会で東京市場が開くと同時に売りが殺到し大暴落となった。紙幅の都合で詳しく書けないが、日本を狙い撃ちしようとする外国勢の周到な作戦があり、日本はこの動きに全く無知のままこの罠にはまりこんだというのが真相であろう。その後、経済

の本質に無知な政治家、官僚により日本経済浮上の芽は摘み取られ、20年以上にわたる低迷が続いている。今考えてみるとこれが最初の蹟きだったのである。

このバブル崩壊もその根本に日本の台頭を快く思わない外国勢力の戦略があることを見抜いて適切な手を打ってあげれば、ここまで酷い状況は避けられたであろう。しかし時の日本の政治家、官僚は本質を見抜き対策を立てるのではなく、後追いの対症療法に終始し事態をさらに悪化させ今日に至っている。一つの例を次にあげてみる。

## 総量規制という愚策

日本のバブルは簡単に言う土地バブルであった。土地は限られた資産であり、その価値が下がることはないという神話があった。一方、アメリカから日本の貿易黒字を減らす為内需を拡大せよと強く迫られ、政府・日銀は金融緩和を行い円がだぶついていった。結局行き場のないお金は土地やゴルフ会員権等に向かうこととなり、土地の値段が予想を超えて上昇することとなった。そこに株の大暴落が起きた。

この時大蔵省銀行局の1局長が今後土地取引には一切金を貸してはならないという大蔵省通達を出したのである。確かに行き場のない金が土地の価格を押し上げたのは事実であるが、だからと言ってバブルが破綻した後で土地取引に金を貸さなければ土地取引はできなくなり、結果として力ネが回らなくなり経済が不振になるのは分かり切ったことである。

このような重大な事が国会の議決もなして大蔵省通達という形で出され、バブル破綻後の日本経済の足を引っ張ることとなった。金詰まりで経済不振になっていくところへ大蔵省は第2次の公定歩合引き上げを行い、公定歩合は0%となった。素人が考えても対策が逆だろう言いたくなることを、優秀である筈の官僚が行い政治家も何も言わなかった。この逆をやっていたらあれほど酷い経済の落ち込みは無かったと思われる。

## 財政再建で増税は正しいか？

野田総理は財務省の役人の言うことを信じ増税路線に舵を切ったが、これは正しい政策なのだろうか。先のバブル崩壊後大蔵省の役人がやったことと同じく首吊りの足をひっぱっているように筆者には思われてならない。その理由は二つある。

① 日本の場合、国が財政破綻することはない。政府の借金は国民の資産故政府が行き詰まっても国が破綻することはない。ギリシャのような外国からの借金とは違う。

② 政府の必要資金は税金により国民から集めるもの。GDPがその源泉である。増税をすれば間違いなくGDPは縮小する。短期的には増税の効果があるがGDPが縮小すれば長期的には税金総額は減少する。現状では増税は間違いなく財政赤字を増加させる方向に向かう。

## 今求められているのは

日本経済をマクロの目で見れば、供給力が必要を上回るいわゆるデフレギャップがあり、国民は金を使おうとしない。消費税を5%上げるのも、物価を5%あげるのも政府の費用捻出から見れば同じである。決定的な違いは税金を上げれば金は天から降ってくるものではなく、

GDPがその源泉なのである。国民は消費を抑えGDPは確実に減少する。一方、物価を上げれば国民は貯蓄より消費を選ぶこととなりGDPは増大する。国民の高齢化により福祉関係予算は大きくならざるを得ない。福祉に必要な金は天から降ってくるのではなく、GDPがその源泉なのである。

## この経済の本質が分かれば政府がやるべきことはGDPを増大させること以外にはない。デフレの時にインフレ対策を行ってはならない。

デフレの時はデフレ対策を行わねばならない。デフレ対策は政府が震災復興の国債を発行、日銀がこれを買取り復興工事をやることである。元大阪大学の丹羽名誉教授がかねてから主張されている政府紙幣発行がベストだと思うが、何であれ政府が率先消費をしのGDPを大きくしなければならぬ。「コンクリートより人」という誤れる考えに毒されてはならない。日本は世界有数の災害大国である。いつ起きるかもしれない大災害に備え必要な公共投資は遅滞なく実施しなければならぬ。金利の安い今こそ必要な工事をい子孫に価値ある資産を残すのが現代の我々の使命でもある。道路も先進国の中で日本はかなりの遅れにている。港湾、国際空港もシンガポールやコリアに先を越され国益を奪われている現実を政治家は手をこまねいていない。やるべきことは山積しており、必要な資金も考え方一つで手に入るのに、何もしていないことは国民を裏切ることではないか。このように頭を切り替えればやるべきことは沢山あり、それらを実行すれば確実に景気は回復し日本経済再生の道は見えて来ると思うが如何であろうか。

# 尖閣列島。おぼろけにする

元陸軍少尉 山本 明

関東の暴走老人は石原なら、関西の暴走老人、山本明翁の意見を紹介したい。翁は、シベリア抑留10年、捕虜の超ベテラン。御年92歳だったか。私のもっとも大事な(失礼ながら)友人である。

尖閣をどうするか。翁の意見を拝聴したい。その前に……増木

■「加瀬英明のコラム」MLより

送信日：2012/11/22 (Thu)  
題 名：いますぐ尖閣諸島に陸上自衛隊を駐屯させるべき

これまで日本は平和憲法の発想によって思考を停止して、世界の現実を直視する力を失って、ひたすら外国と摩擦を生じるのを恐れ、平和国家ぶって得意になってきた。私はもう20年も前から尖閣諸島に、陸上自衛隊の1コ中隊を交替で駐屯させるべきだと、論じてきた。中国は海軍の拡張に乗り出したばかりだった。日本の経済協力と投資に餓えていたから、口先で抗議しても、既成事実として認めざるをえなかったはずだった。

私はやがて中国が軍事力を増したら、尖閣諸島をかならず盗りにくると予想した。防衛省は中国が傍若無人に振る舞うために、離島奪還のための戦闘訓練と装備の調達を、あわててはじめた。来年度予算ではじめて、水陸両用車をたった4輛でしかないが、購入することになった。

ところが、わが自衛隊にはもし尖閣諸島が奪われた場合に、奪還する能力がまったくない。陸上自衛隊の実力部隊とし

て、那覇に1000人程度の第15旅団がいるだけだ。沖縄本島から与那国島まで、514キロにわたって先島が連なっているのに、宮古島にレーダ基地があるだけで、この間に実戦部隊はゼロだ。

旅団といっても、諸外国なら連隊に当たる人員数だ。連隊だったら連隊長が佐官で足りるのに、将官のポストづくりのために、旅団となっている。連隊も大隊の規模でしかないにもかかわらず、佐官のポストづくりのために、連隊となっている。

ついでの間まで、日本社会党が上陸戦闘のための水陸両用車が攻撃的な兵器だといったために、認められなかった。同じことが、航空自衛隊が今日でも戦闘機として飛ばしているF4Jについても、あてはまった。F4にせつかく爆撃装置がついていたのに、「侵略的だから」といって、採用にあたって外された。そこで、アメリカ国防省ではJJIIが、シャパンのJではなく、「欠陥商品ジャンキ」のJだと、嘲っていた。

どうして自由陣営において、アメリカに次ぐ第2位の経済大国である日本が、尖閣諸島という小島をめぐって日中が武力衝突した場合に、まず独力で守ることができないのか。はじめからアメリカ軍にすべてを頼るのでは、アメリカの世論が納得しない。

それでもアメリカ軍に頼るほかないが、アメリカは尖閣諸島に限定された侵攻の場合には、日本が独力で対応し、衝突が拡大する場合は、日米安保条約を通

用するといっている。

日本国民の多くが日本が「平和国家」であることを誇ってきたが、他人委まかせの贖済を見せびらかして、自慢するのと同じように浅はかなことだ。軽蔑しか、招かない。他人委せの平和を誇ることはできない。日本国民に平和を愛している、と言える資格はまったくない。

戦後、アメリカの絶対的な軍事保護が、日本人から国家意識を失わせるのに当たって、決定的な力を持った。日本はどの独立国であっても持っているべき国家精神を、捨ててしまった。

もし、中国の海上民兵である漁民が、魚釣島に大挙上陸して、事前に島にあがったわが警察官が、海上保安官が人質となり、人民解放軍が自国民を保護すると称して出動したら、どうするのか。いまからでも、武装要員を駐留させるべきである。

また、「防人を励ます会」本部理事奥中正之氏は次のように述べている。

知人からの指摘で、私も思いだした。韓国の民間機が旧ソ連領土の上空を侵犯したさいには、ソ連のミグ戦闘機は警告射撃もなく、ミサイルをぶち込んで撃墜した。これに対して韓国は外交断絶などの強硬抗議すら出来なかった。

それに対して、シナの政府公船が4隻そろって尖閣諸島の日本領海を侵犯しても、撃沈することもわが国は出来ない。

撃沈どころではない、先般台湾の漁船団が尖閣諸島に接近しようとした時、海保の巡視艇は漁船には放水したが、巡視艇と漁船の間に台湾の政府公船が割り込むと、巡視艇は放水銃を下に向け、台湾公船に水がかからない処置をとった。これ

はなにも海保がだらしが無いのではなく、わが国の法制と政治姿勢がつまりらんなからの結果である。

軍事力と軍事と言うと、「戦争」と誤解する方々のために言いかえると、「抑止力」なき外交は無力である。これでは、シナに舐められるのは当然である。

長年政権の座にあった自民党は何をしていたのか！と怒鳴りたい気分だが、領海侵犯の外国船舶は撃沈可能とするような法改正をすれば、それこそ左翼勢力の総攻撃を受ける恐れ大で、それを恐れ社会党に妥協している間に自民党は全く健全保守党ではなくなりました。

尖閣の危機はまさに、わが国の国家態勢の根本を問い直すものである。

翁の答えは、「このままの状態では慢比べ。」中国も国際世論を配慮し、即武力攻撃はしてこないだろう。しかし、日本が尖閣に部隊を上陸させたり建造物を構築などとすると、シナはいよいよ口実ができ、直ちに武力を行使してくるだろう。武力なら日本が負けるとは思はないが、次にやるのは経済封鎖。シメタルの騒ぎではない。先ず財界が持たない。衣食中国品であふれかえっている日本。要は、生活占領されているのだ。我々はもはや彼らのようにべんべん草を食べて、年中Tシャツ1枚では生きていけない。それに耐えられるのか。でなければ現状での力マン比べしか道はない。

尖閣への部隊上陸は、中国に日本経済を押しさえられる前、10年遅かった。

日本一のプロの戦術兵からの現実直視のメッセージだ。私(増木)も同意見。

拳をあげる前に落ち着いて大人の判断を。間違っても翁に「根性なし」などと言ってはいけない。杖で引っ叩たかれる。

# 国を守るの方々の住環境

衆議院議員 高市 早苗

本来冒頭にご紹介しなければならぬ高市先生のコラムですが、文字数と編集の関係で、末尾になってしまいました。ゴメンナサイ！

2012年10月17日

高市先生のHP、早苗コラムより

昨年の東日本大震災発生後には、自らも被災者でありながら、また、自らの家族の安否も不明であるにも拘わらず、発災直後から人命救助や不明者捜索などに奔走された多くの方々のご献身在伝えられました。

とりわけ自然災害などの緊急時に速やかな出勤が求められる自衛官、警察官、消防署員などの公務員には、まずは発災時に自らの身体を守った上で、負傷の無い状態で出勤していただく必要があります。

8月にも本欄の文中で触れましたが、全国の自衛隊官舎の約15%が築40年を超え、25%が築30年〜40年だといつこと。

老朽化による劣悪な住環境に加え、耐震構造に問題があると聞いています。公務員宿舎の建設や改修には厳しい批判の声が上がる昨今ですが、冷静になって必要な対策は講じておくべき時期に来ていると思います。

国民の生命を守る為に活動していただかなければならない自衛官が発災直後に負傷して動けないようなりすくは最小化しておかなければなりませんし、任務に

没頭していただくには、ご家族の安全確保も必要です。

予算編成の時期を前に、政府には、自衛官のみならず緊急時の初動に携わる公務員の身体の安全を守る為に必要な予算措置にも配慮をしていただきたいと望みます。生命を賭して領土と領海を護り、海難救助にも活躍して下さっている海上保安官。

9月29日に、スポーツ報知が「今秋の海上保安学校の入学試験申込者数が、前年の約2.5倍になった」と報じていました。入学試験は、約38倍の競争率という難関となるのだそうです。

尖閣諸島周辺で発生した事件により強い問題意識を持って志望された方、映画「海猿」や海上保安庁の広報を見て人命救助への高い志を持って志望された方など様々だと思いますが、多くの若い方々が国家国民を護る任務に就こうとして下さることは、本当に心強いものです。

最近、舞鶴市の海上保安学校を訪問した友人がメールをくれました。

残念ながら舞鶴の海上保安学校には女子寮が整備されておらず、同校の敷地内で生活用ではない建物で寝泊まりする女子学生たちの住環境は相当に気の毒な状況だとか…。

昨日に続き、予算措置に係る政府への要望となります。

女子寮新設には数億円の費用がかかるのだと思いますが、崇高な任務に向けて厳しい勉学と訓練に励む学生たちの為に、最低限の住環境整備を望みます。

## 編集後記

あけましておめでとございます。一番最後の「編集後記」に「おめでとございます」もないだろうが、今気がついたのだ。選挙応援に忙殺され、ハツと貴がつけば、後2週間でお正月。前々号(137号)で「今年ほど忙しかった年は

## 活動資金協力のお願

【J支援等の口座】  
郵便振替 00000004064 MASUKI情報デスク  
三井東京JCB銀行中野支店004349 普通 増本健夫

まずは、平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。このサポートにもありますように、私どもは子供達に誇りある国を残すため、日々命がけで戦っています。ところが問題は活動資金。今まで以上にがんばります。何卒資金のご協力を伏してお願ひ申し上げます。

※ この、M情報機関紙は新聞の形態をとっていますが、「活動の報告書」です。特に「購読料」は設定していません。カンパをよろしくお願ひいたします。

○ カンパ金の主な使途は下記団体の、  
・ 活動の資料等の発送費・道路、公園

## 原稿・同封資料の募集について

弊会『M情報活動報告』は、現在のところ毎月月初めに全国約5千(目標1万)部発送しております。掲載ご希望の論文、情報等ございましたらどんどん表記事務所

## 諸情報のメール配信について

弊『M情報』では、日々、全国各地の仲間から、または情報収集の専門家から情報が送られてきます。それをメールで転送します。内容はどこよりも詳しく多種多様。「量が多過ぎ」とお叱りを受けますが、

ない」と書いたが、それから竹本先生をお呼びして集会。さらに、私が住んでいる千里ニュータウンの守り神、上新田天神社の景観を守る活動が急遽割り込んできた。ほとんど週1回街頭演説。それに「景観を破壊するな！」看板つくり。「成田闘争に負けるな！」などと言っている。正月くらいは休めるのだろうか。増本

使用申請料等・交通費、通信費

資料、CD等の制作費・備品購入費

○ M情報が運営を行っている主な団体

・ 救う会大阪 ・ NO! 民主「桜組」

・ 靖国神社に眠る御霊に感謝する会

・ 米国に原爆投下謝罪を求める会

・ 大阪の公教育を考える会

・ スパイ防止法の制定を求める会

・ 外国人参政権に反対する会・関西

・ 日教組の違法行為を追及する市民の会

・ 竹島を奪還する会・関西

・ 改憲祈念の会

◇ 前記口座、または同封の郵便振替にてご協力ください。

までお送りください。また、弊紙は郵メールで発送しています。重さ制限は50gです。まだ余裕がございますので、資料等の同封が可能です。ご相談ください。

試して一度受信してみてください。ご不要でしたら即停止いたします。要領は次のアドレスに「メール希望」と空メールを(発信名義「NPO 法人百人の会」)。

h100pjs@oreganoocn.ne.jp